奈 良 女 子 大 学 附 属 学 校

# Newsletter

附属学校ニュースレター　第25号・2017年5月30日

## 就任のご挨拶

附属小学校長　菊崎　泰枝

学園前から附属小学校への道、実はこれまでにも年に数回は通う機会がありました。といいますのも、私の所属学科（生活環境学部食物栄養学科）では、毎年、附属小学校で実施している給食経営管理臨地実習と栄養教育実習で学生がお世話になっており、私が実習担当者であったため実習反省会等で附属小学校を訪れていたからです。その意味では、私にとって附属小学校は未知の場所ではなく、むしろ親しみのある場所でした。とはいえ、知っていることはごく一部だけでしたので、附属小学校長を拝命したときは、無事に務まるのだろうかと何とも頼りない気持ちが致しました。しかし、時間は容赦なく過ぎ、次から次へと行事がやってきます。思い迷っていても仕方ないと半ば開き直り、成瀬前校長先生ならびに堀本副校長先生のご助言を頼りに、なんとか船を漕ぎだした次第です。

最初の仕事は職員会議に出席することでした。新年度最初の職員会議でしたので、年度計画や年間行事が議題でしたが、若手の先生方が活発に発言し、熱い議論を繰り広げているのを目の当たりにし、皆で小学校を作り上げていくのだという気概がひしひしと伝わってきて、たいへん感銘を受けました。

4月10日には始業式、つづいて4月12日には入園・入学式がありました。両日とも、校庭の美しい満開の桜並木が子どもたちの進級・入学に華を添えてくれていました。この時期に桜が満開というのはめずらしいそうで、就任最初の年でもありますし、私にとってはとても印象に残る式でした。

始業式では、子どもたちに「今年できるようになりたいこと」を考えて1年の「めあて」にしてほしいとお話ししました。そして、学年ごとに話しかけますと、子どもたちが元気いっぱいに返事をしてくれて、その反応のよさに、大学では普段なかなか味わえない新鮮さを感じました。始業式で一度子どもたちの前に立ってお話しをしただけでしたが、その後、各教室を回って子どもたちの学習の様子を参観していますと、子どもたちが私のことをちゃんと覚えていて「校長先生！」と声をかけてくれ、とてもうれしい気持ちになりました。と同時に、校長職という重責に身の引き締まる思いが致しました。

育友会・後援会の総会では、保護者の方々の多大なご協力をいただいて小学校の運営が成り立っていることを知りました。次の大きな行事は春の運動会です。お天気に恵まれますようにと祈りつつ、子どもたちのはつらつと運動する姿を想像しながらこの原稿を書いています。

就任一年目、新米校長ですので、教職員、子どもたち、そして保護者の皆様のお支えのもと、ひとつひとつの行事に勉強しながら臨んでおります。正直のところ、まだまだ余裕を持つまでには至りませんが、子どもたちに寄り添い、子どもファーストの姿勢を心がけ、未来ある子どもたちのために少しでも役に立てるよう、微力ながら役割を果たしていきたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

## お迎えの会　　附属幼稚園

3歳児が初めて幼稚園に登園する日。幼稚園では「お迎えの会」を行っている。在園児がみなで3歳児の入園を祝う会である。そこでは年長児がお迎えの挨拶をしたり合奏をしたりして、3歳児の入園を嬉しく思う気持ちを表現する。

年長への進級前、「私たちが年長になるってことは…？」「新しい年少さんが来るってこと？」目をきらきらさせる子ども達。「新しい年少さんにどんなことを知らせてあげたら幼稚園に来ることが楽しみになるかな？」という教師の問いかけに「おやつもある」「滑り台も楽しい」「動物もいるよ」と自分達の生活や遊びを振り返りつつ、幼稚園の魅力を語る子ども達。また、「合奏をきかせてあげよう」「幼稚園に来ることを楽しみにしていたよって言ってあげよう」「泣くかもしれないから大丈夫って言ってあげなきゃ」など自分達がしてあげたいと思うことがたくさんでてきた。子ども達とのこうしたやりとりから、子どもの思いが目一杯詰まったお迎えのあいさつが完成した。

「お迎えの会」当日。新入園児を前に緊張した表情を見せつつも立派に年長児としての役割を果たした。「つかれたな」と言いつつも笑顔がこぼれる。つい2年前は迎えられる立場であった。たった2年、されど2年という月日の中で、様々な経験を積み重ね体も心も成長してきた。そしてまたこの一年で様々な活動を通して多くのことを学び、成長していってくれるはずだ。「お迎えの会」は新入園児のためのお祝いの日であると同時に、年長児のこれまでの成長を確かめ、これからの成長にさらなる期待を寄せる、年長児として新たなスタートをきる日となった。

## 着任のご挨拶

### 附属小学校　長島　雄介

今年度、附属小学校に着任しました、長島雄介です。４年生を担任しながら、理科教育の研究をしています。

昨年度までは、埼玉県内の公立小学校に勤務していました。理科実験の際、児童が考察文を的確に書けるようになるために、教師はどのような支援をすればよいか。また、児童がお互いにどのようなかかわりをもてばよいか。あれこれ悩んでいるときに、本校の「奈良の学習法」に出合いました。

長い年月をかけて培われてきた「奈良の学習法」を理解し、実践することは決して簡単ではありませんが、新しい場所での学びをとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

### 附属小学校　　井平幸子

４月より附属小学校に着任しました井平幸子です。よろしくお願いいたします。

私が初めて本校を訪れたのは学生の頃。学習風景に大きな驚きを持ったことを今でも鮮明に覚えています。学習を次々と展開していくのは子どもたち。先生方はその様子をじっと聞いておられ、時に的確に発言される。なんと主体的で自律的な学習だろうと感心しきりでした。

以来、私の理想とする学習風景となっています。伸び盛りの子どもたちと共に、自身も成長していきたいと思います。

## 着任のご挨拶

### 附属中等教育学校　松浦　紀之

４月に附属中等教育学校に着任いたしました理科（化学）の松浦紀之です。どうぞよろしくお願いします。前任校（大阪府立の高校）は，スーパーサイエンスハイスクール（SSH）やスーパーグローバルハイスクール（SGH）といった研究開発に取組む学校で，私もSSH事業や国際交流等に関わってきました。生徒引率で海外のサイエンスフェアに参加した経験から，海外の生徒と協働できる機会が，国際社会で通用する人材育成に効果があると感じました。本校の様々な活動によって，生徒たちが夢や希望を掴むことができるように支援していきたいです。

### 附属中等教育学校　西　美春

この春から附属中等教育学校に着任いたしました西美春と申します。担当教科は国語です。

私は奈良女子大学の卒業生で、本校に教育実習等でお世話になりました。その当時、「自由・自主・自立」の精神を体現する生徒たちの姿に感動したことを覚えています。この度縁あって本校に勤務させていただくことになり、そのような生徒たちの「自由」な活動を支えていけることを嬉しく感じています。教師2年目でわからないことも多くご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

### 附属中等教育学校　松原　俊二

はじめまして、松原俊二です。教科は理科（生物）を担当しています。2005年に本校を卒業し、大学・大学院を経て、昨年度までは大阪府の高校教員をしていました。この度、思い入れのある母校に、こうして教員として戻ってこられたことを嬉しく思っています。お世話になった先生方に囲まれて、思い出の校舎を歩き、学友の歌を口ずさみながら、みなみのパンを頬張る…あの頃と同じような毎日を過ごしながら、細胞レベルで若返っていくのを感じています。元気いっぱいの子どもたちに負けないように、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

### 附属中等教育学校　加島　ゆう子

この度、中等教育学校の養護教諭として着任致しました加島ゆう子と申します。遠く「六甲おろし」の風が吹き抜ける甲子園球場のある兵庫県西宮市に住んでいます。私は「夢を抱き、叶える子どもたち」の育成を目指し、各所で講演活動を行っています。夢を抱き、その夢が叶った時の自分を鮮明にイメージできる人の夢は必ず叶います。夢を抱き、実現しようとする子どもはどんな困難をも乗り越える力を持ちます。夢の実現に向け突き進む生徒たちを、心身の両面から全力でサポートして行きたいと思います。

**附属幼稚・音楽コーナー**
**置本麻友実**

今年度より、附属幼稚園にて音楽コーナー及び保育補助として勤務させていただいております。

みんなの仲間入りをさせてもらって早1か月が経ちましたが、その間にも季節の移り変わりや子どもたちの成長や変化に驚いています。満開の桜の後から、砂場の藤棚が咲き、ツツジの花やタンポポが色鮮やかになりました。竹やぶには竹の子がニョキニョキ生えています。花びらを集めてジュースやさんごっこ。花の間でかくれんぼしているダンゴムシ探し。まるで探偵のように細かな所まで。広い園庭では元気に走り回ってバナナ鬼ごっこ。みんなの足の速さには敵いません。空き容器や箱で自由に制作。子どもたちの創造力は計り知れないと感心しています。

自然いっぱい、魅力いっぱいのこの園で、活き活き伸び伸び過ごしている子どもたちを見ていると、私まで元気パワーをもらっているような不思議な感覚になります。可愛い白いエプロンを身に付けて元気に登園して来てくれるのを毎日楽しみに待っています。

私も子どもたちに負けないくらいの元気と笑顔で頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

**附属学校部**
**特別支援教育コーディーネーター**
**羽田　良江**

今年3月31日に附属中等教育学校を退職し、養護教諭生活にピリオドを打ちました。4月からは、附属学校部の特別支援教育コーディネーターとして、外からしか見たことのなかった幼稚園・小学校の生活に直接触れ、慣れ親しんだ中等教育学校を少し離れて眺めています。

幼稚園・小学校は、主に担任が子供達の一日を見守っていますが、中等教育学校へ入学すると、授業は全て教科担当制になり、クラブ活動での先輩後輩など一気に人の輪が広がり行動範囲も広がっていきます。このような幼・小・中等の学校園生活、学習形態の構造化の違いを理解していかないと子供達への適切な支援に繋げていくことは難しいと考えています。

特別支援教育は、教育・医療・心理・福祉、それらを総合的に見て対応していかなければなりません。公的支援を受けることが難しい附属学校園では、大学をはじめ地域を中心とした外部の専門家との連携が不可欠になります。附属学校園の子供達が適切な支援を受けられるように、附属学校園の先生方のご協力をいただきながら、大学と附属学校園間、附属学校園間、そして、附属学校園と外部の専門家間の橋渡しが出来たらと考えています。よろしくお願いいたします。

**附属中等教育学校　副校長　北尾　悟**

この春から、武田章前副校長の後任として附属中等教育学校副校長になりました。

9年前にこの学校の自由で独特な教育に魅せられ本校に来させていただいて以来、日々の授業を大切に、歴史や現実の課題をともに考えることを通じて、生徒と“考える授業”を実践してきました。私にとっては、これがすべての発想や行動の原点であり、管理職となっても、この原点から組織や物事を考えることは大切にしたいと思っています。

720人乗り、47人の乗組員のこの船はいま、〇〇省をはじめとした社会の“荒波”や、生徒のみなさんが抱える様々な課題といった“岩礁”に日々立ち向かっています。独特のお話で船内を明るい雰囲気にされる渡邊艦長や強いリーダーシップで“荒波”を突破する吉田船長のもと、よい景色が見える場所へたどり着くように“海図”を描くのが、私に求められた役割かなと、自らの「力不足」を日々実感しながらも、なんとかやっているところです。

副校長になることが決まり帰宅したとき、妻には「“生涯一教師”ってずっと言っていたのにね。」と笑われました。まあこれからは、心だけでも“生涯一教師”であり続けるように努力するかな…。

奈良女子大学附属学校部　〒〒630-8305 奈良市東紀寺町1-60-1　TEL.0742-26-2571